

フォーユー新聞



発行：奉優会
事務局
企画事業推進室

60号（平成26年2月発行）

第6回 事例研究発表会

が開催されました。

平成26年2月9日 玉川区民会館ホールにて第6回事例研究発表会が開催されました。各事業部の予選会を経て、その中から選ばれた14事例が出場し、一年の成果を発表しました。当日は、記録的な豪雪の爪痕が残る中、地域・自治体関係者、ご利用者ご家族の方をはじめ、過去最多の266名の方にご来場いただきました。



審査委員長
埼玉県立大学教授
理事 鈴木真理子



第6回 事例研究発表会 受賞者記念撮影



マニュアル大賞 受賞者記念撮影



最優秀賞



「高齢者在宅支援に向けた私たちの役割」



等々力の家デイホーム / 古林・山根・林

玉川地域において独居高齢者の割合が多く、独居・高齢者世帯を支えるサービスが求められている。



入所施設は費用の面や定員の面から、即入居が難しくなっている。

在宅生活サポートが必要不可欠

＜プラン深沢とは＞

東京都の「シルバーピア事業(住宅施策と福祉施策が連携し、在宅高齢者の福祉の推進を図ることを目的とした事業)」の指定に基づき、世田谷区が開設した、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯を対象に日常生活を自立して営める高齢者の方専用の賃貸住宅です。

生活援助員が入居者の方々の生活を支援します。

プラン深沢在住M・Fさんの場合

女性・90歳・介護度2
独居・通所週2回

＜困りごと＞

- ・認知症の進行
- ・食事ができない
- ・ゴミ捨てができない
- ・通院ができない
- ・息子様重篤疾病により介護力▲



プラン深沢在住M・Eさんの場合

女性・87歳・要支援2
独居・通所週3回

＜困りごと＞

- ・買い物が出来ない。転倒が怖い。
- ・転倒歴あり
- ・重い荷物 ×
- ・食品・日用品が買いたいときに買えない



＜取り組み内容＞

- ・認知症 ⇒ 通所週6回へ
- ・食事 ⇒ 夕食も提供
- ・ゴミ捨て ⇒ 週二回のゴミ捨て代行
- ・通院 ⇒ 職員同行による通院

＜取り組み内容＞

- ・サミット買物同行(毎日)
- ・100円ショップ(月1回)
- ・ユニクロ(月1回)



プラン深沢在住 デイ未登録者への対応

- ① プラン深沢での懇談会に参加
4月、5月、6月、7月、8月、9月、11月、2月
- ② デイホームでのイベントに招待
懇談会(4月、5月、6月、7月、8月、9月、12月、2月)
納涼祭(7月)



③ 勉強会の開催

- 12月 インフルエンザ
- 2月 PTによる転倒予防
- 4月 食中毒
- 7月 脱水、熱中症
- 12月 冷え性対策



まとめ!

プラン深沢在住M・Fさんの場合

臨時通所、通院送迎、毎回の安否確認、体調確認、デイでの1日2回の食事提供による栄養管理、火のもと確認、冷暖房確認、定期的なゴミ出し、おむつ購入代行というサービスは特に集合住宅における一人暮らしサポートサービスとしてご利用者・ご家族の満足度は高く、今後他のご利用者にも展開できるものと考えます。



プラン深沢在住M・Eさんの場合

M・Eさんに提供している買い物中心の生活基盤サービスは、楽しみと安全・安心を提供し、独居在宅生活継続に繋がるサービスとして今後発展・展開していくべきサービスとして考えます。



プラン深沢在住

デイ未登録者への対応

デイホームをご利用されていない住人の方へは、親密な関係を築きつつ情報提供ができました。現在は懇談会参加が困り事抽出に繋がっており、今後具体的な困り事解決に繋がることが期待されます。徐々に増えていくであろう困り事を生活協力員さんとの連携でサポートできる「プラン深沢システム」は今後の高齢者住宅モデルの一つとして提案していきたいと考えます。

今後の方向性



包括ケアを軸に等々力の家(特養・ショートステイ・通所・居宅介護支援)が一つになって独居高齢者を支えていけるような生活基盤の仕組み化の実現

優秀賞



「私の教室OPEN!!」

～活躍の場へ～



豊岡いきいきプラザ（高齢者福祉センター）
／横山・齋藤

T様 「おりがみ教室」をOPEN!!

- ① 「みんなの食と健口講座」終了後におりがみを楽しむ。⇒QOLの改善
- ② 「おりがみひろば」「みんなでおりがみ」教室へお誘い。⇒世代間交流にも参加
- ③ 講師として「おりがみ教室」への参加をお願い。
- ④ 作品展へ出品、地区イベントの参加、他館での教室も開催



二次予防事業に参加し、間もなく介護保険を利用する立場だったT様が、教室を通じて他のご利用者の介護を予防する存在に。

まとめ!

私たちが創るのは、高齢者が地域社会を支える担い手となり、広く活躍できる社会。

拾いあげた小さな種は、私たちが創りあげたこの豊岡いきいきプラザという土壌で育ち、花を開かせる。その木は次々に花を咲かせ、また、新しい場所へとその花を広げていく。

参加者一人ひとりの力が大きな意味を持って動き出す。そしてそれは、豊岡いきいきプラザ内にとどまらず地域へと広がっていきます。

私たちは、高齢者が技能・技術・趣味及び特技を生かすことで地域社会に貢献し、地域に頼りにされる住民となり、また高齢者自らが活躍するための拠点にしていきます。

M様 「絵手紙教室」をOPEN!!

- ① 「もっと健康トレーニング」に参加
- ② 絵手紙が趣味、また始めたいと熱望。
- ③ 講師として「絵手紙教室」への参加をお願い。
- ④ 港区社会福祉協議会「かんがり事業」へ参加。⇒ボランティア入門講座への講師要請



介護予防事業参加者であるM様の絵手紙で始まった教室は、地域ボランティアの発掘にまで広がった。

＜かんがり事業とは＞
区内在住の75歳以上のひとり暮らしの高齢者へ年賀状や暑中見舞いの葉書を贈るボランティア事業

理事長賞



「排泄ケアで生活に潤いを」

～排泄を見つめ直し、下剤の必要性を問う～



特別養護老人ホームかわいの家／工藤・中島・門田

下剤班とトイレ誘導班を組織し実践する。

- ① 下剤の弊害
 - ・腸が下剤の連用により長く伸びきってしまい、ぜん動運動が出来なくなり、自身の力での排便が困難になる。
 - ・酸化マグネシウムを長期常用していると、高マグネシウム血症となる危険性がある。（呼吸抑制、除脈、意識消失、心停止）
 - ・大腸がんの発生リスクが2.75倍となる。
- ② 2種類のアセスメントシートを作成
 - ・トイレ誘導アセスメント表
 - トイレ誘導が困難な理由を記載し、誘導のアドバイスを行う。
 - ・下剤状況把握表
 - 水分・食事・運動の連動性を見ながら、対策を確認。
 - 12月からは排泄カンファレンスをユニットごとに開始。
- ③ 排泄フローチャートを作成
- ④ 定時排便・座位排便
 - ・直腸がまっすぐになり、腹圧がかかりやすく、重力により便自体の重さで直腸に下りてくる。

ケース1)D様

- ・アルツハイマー型認知症
- ・向精神薬服用
- ① 向精神薬の服用を減らす。
- ② 下剤の中止。

排泄訴え出現・便失禁ゼロ

ケース2)T様

- ・仙骨部の亀裂・肛門の裂肛
- ・ターミナル期
- ① 下剤の中止
- ② 肛門部の除圧（体位変更・座位変更）
- ③ 栄養の改善（蛋白質・亜鉛を補給）

少しずつ改善

下剤の使用率

89%⇒46.7%
44位⇒20位

※全国老人福祉施設協議会
介護力向上講習会に於いて



常務理事賞



「激録 ゴミ屋敷奮闘記」

～地域包括ケアシステムを考える～



白金の森地域包括支援センター／柴田・松田

K様のケース

85歳、男性、独身、課税世帯、ご近所との関係は良好。趣味はパワーヘルス、社交ダンス等。便臭やホームレス臭あり。姉（アメリカ）、弟（千葉）姉に月1～2回程度電話する程度交流。

玄関は20cmほどしか開かず、家の中を覗き込むと、ゴミや物の山が1.5mほどの高さまで積みあがっている。

- ① ふれあい相談員が訪問（警察署のアドバイザーが同伴）
⇒ご本人とふれあい相談員で玄関を片付け
- ② 本人・弟様・清掃業者・清掃事務所・包括・ふれあい相談員で打合せ
⇒2階部分だけを承⇒清掃途中で決裂・中断
- ③ 港区高齢者支援課・支所保健福祉係・支所協働推進係・保健所を加え打合せ
⇒港区の生活管理指導を行うこととなる
⇒3日をかけて掃除完了

その後

体調を崩し入院・病院での話し合い・弟様との絶縁・成年後見人補助類型申立援助・ルームクリーニングの打合せ・その間の住居の世話・介護保険利用開始等。

その後の見守りを包括や介護事業者、近隣だけで行うことになった。

＜生活管理指導とは＞
基本的な生活習慣が欠如している高齢者に対して、助言や援助を行いながら室内状況を改善し、福祉サービスへつなげることを目的として実施する港区の事業

2月1日より、渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎに 地域密着型特別養護老人ホームがオープンしました！！

11月より始まった改修工事は12月末で終わり、1ヶ月間の準備期間を経て平成26年2月より地域密着型特別養護老人ホームの運営が開始されました。



施設長
水内 利英

(施設事業本部 部長)

この度、平成26年2月1日より渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎ単独型ショートステイから地域密着型特別養護老人ホーム（以下せせらぎ特養）へと生まれ変わります。施設長を務めさせていただきます水内です。よろしくお願いいたします。

まず、地域密着型特別養護老人ホームは、定員が29人以下の特別養護老人ホームで、入居できる方は事業所の所在する区の住民の方のみとなり、渋谷区民の方が入居対象となる施設です。個室・多床室を含め全31床（内特養24床・ショート7床）となっております。平均介護度は4.3です。

運営方針としては、渋谷区高齢者保健福祉計画の「いきいき あんしん ささえあいのまちづくり」の基本理念に沿い、介護が必要になっても自分らしくいきいきと、安心して、住み慣れた渋谷区で生活し続ける住まいを実現していくことを目指します。

外出企画や重介護の方々の専門レクリエーションであるヒーリングケアを実施し、また、職員研修にも力を入れ、様々な方々の入居受け入れ体制を構築し、住み慣れた地域で安心して生活し続けられるよう尽力いたします。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

地域密着型特別養護老人ホームとは？

地域密着型特別養護老人ホームとは、定員が29人以下の原則として区民のみが入所対象となる施設で、せせらぎの居室は、利用料金がユニット型より廉価な多床室・従来型個室から構成されています。

特別養護老人ホーム奉優の家 開所式！



施設長
清水 誠太

(施設事業本部 部長)

快晴の中、土地オーナーの鈴木様をはじめ、地域の福祉関係者や近隣施設の方々80名を超えるお客様が出席され、特別養護老人ホーム奉優の家の開所式が行われました。

奉優の家職員一同で足立区の歌「わがまち足立」を披露するなど和やかな雰囲気の中、施設長の清水は「地域に愛される施設づくりを目指す」と抱負を発表しました。
※奉優の家については次号で特集します。

せせらぎケアハウス 冬バイキング

2/24（月）の夕食は、せせらぎケアハウス年2回の一大会！『ディナーバイキング』でした。



前菜からメイン、デザートまでフルコース仕立てでご賞味いただけるような構成です。前菜～メインまででお腹いっぱい、大好評。

香取眞恵子理事長にもご参加いただき、大変な盛り上がりとなりました。



編集後記

今年の事例研究発表会も無事終わりました。大変お疲れ様でした。特に実行委員の方、記録的な大雪の中、準備が大変だったのではないのでしょうか。また、入賞者の方々おめでとうございました。さすが予選を勝ち抜いた秀逸な事例ばかりで、とっても感動しました。
企画事業推進室 河原